PS241/PS242

２４Ｖ電源

取扱説明書

第１版

安全上のご注意

機種の選定および当該製品のご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
以下に示す注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するためのものです。
JIS B 8433（産業用ロボットの安全通則）の安全規則と併せて必ず守ってください。

指示事項は危険度、障害度により「危険」、「警告」、「注意」、「お願い」に区分けしています。

⚠ 危　険	取扱を誤ると、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される内容です。
⚠ 警　告	取扱を誤ると、死亡または重傷に至る可能性が想定される内容です。
⚠ 注　意	取扱を誤ると、傷害または物的損害の可能性が想定される内容です。
❗ お願い	傷害の可能性はないが、当該製品を適切に使用するために守っていただきたい内容です。

当該製品は、一般産業機械用部品として、設計、製造されたものです。

機器の選定および取扱にあたっては、システム設計者または担当者等十分な知識と経験を持った人が必ず「カタログ」、「取扱説明書」を（特にその中の「安全上のご注意」を）読んだ後に取扱ってください。取扱いを誤ると危険です。
取扱説明書は本体、コントローラ、などの全ての機器の取扱説明書を読んでください。
当該製品とお客様のシステムとの適合性はお客様の方で検証と判断を行った上で、お客様の責任によるご使用をお願いします。
「カタログ」、「取扱説明書」等をお読みになった後は、当該製品をお使いになる方がいつでも読むことができるところに、必ず保管してください。
「カタログ」、「取扱説明書」等は、お使いになっている当該製品を譲渡されたり貸与される場合には、必ず新しく所有者となられる方が安全で正しい使い方を知るために、製品本体の目立つところに添付してください。
この「安全上のご注意」に掲載しています危険・警告・注意はすべての場合を網羅していません。
特に個別の内容は、その機器の「カタログ」「取扱説明書」をよく読んで安全で正しい取扱をおこなってください。

⚠ 危　険

[全般]

- 下記の用途に使用しないでください。
  1．人命および身体の維持、管理等に関わる医療器具
  2．人の移動や搬送を目的とする機構、機械装置
  3．機械装置の重要保安部品

  当該製品は高度な安全性を必要とする用途に向けて企画、設計されていません。人命を保証しません。また、保証の範囲は納入する当該製品だけです。

[設置]

- 発火物、引火物、爆発物等の危険物が存在する場所では使用しないでください。発火、引火、爆発の可能性があります。
- 本体、コントローラに水滴、油滴などがかかる場所での使用は避けてください。

[運転]

- ペースメーカー等を使用している方は、製品から１メートル以内に近づかないでください。製品内の強力なマグネットの磁気により、ペースメ―カーが誤作動を起こす可能性があります。
- 製品に水をかけないでください。水をかけたり、洗浄したり、水中で使用すると、異常作動によるケガ、感電、火災などの原因になります。

[保守、点検、修理]

- 製品は絶対に改造しないでください。異常作動によるケガ、感電、火災等の原因になります。
- 製品の基本構造や性能・機能に関わる不適切な分解組立は行わないでください。ケガ、感電、火災などの原因になります。

⚠ 警　告

[全般]

- 製品の仕様範囲外では使用しないでください。仕様範囲外で使用されますと、製品の故障、機能停止や破損の原因となります。また、著しい寿命の低下を招きます。

[設置]

- 非常停止、停電などシステムの異常時に、機械が停止する場合、装置の破損・人身事故などが発生しないよう、安全回路あるいは装置の設計をしてください。
- Ｄ種接地工事（旧の第３種接地工事、接地抵抗100Ω以下）をしてください。漏電した場合、感電や誤作動の可能性があります。
- 製品に電気を供給する前および作動させる前には、必ず機器の作動範囲の安全確認を行ってください。不用意に電気を供給すると、感電したり、可動部との接触によりケガをする可能性があります。
- 製品の配線は「取扱説明書」で確認しながら誤配線がないように行ってください。

[運転]

- 電源を入れた状態で、端子台、各種スイッチ等に触れないでください。感電や異常作動の可能性があります。
- ケーブルは傷をつけないでください。ケーブルに傷をつけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、巻き付けたり、重いものを載せたり、挟み込んだりすると、漏電や導通不良による火災や感電、異常作動等の原因になります。
- 停電したときは電源を切ってください。停電復旧時に製品が突然動き出しケガ、製品の破損の原因になります。
- 製品に異常な発熱、発煙、異臭が生じた場合は、ただちに電源を切ってください。このまま使用すると製品の破損や火災の可能性があります。
- 製品の保護装置（アラーム）がはたらいた場合は、ただちに電源を切ってください。製品の異常作動によるケガ、製品の破損、損傷の可能性があります。電源を切った後、原因を調べ、その原因を取り除き、電源を再投入してください。
- 電源を入れても製品のＬＥＤが点灯しないときはただちに電源を切ってください。ライブ側の保護装置（ヒューズなど）が切れずに活きていることがあります。修理はお買い上げの弊社営

業所に依頼してください。

[保守、点検、修理]

- 製品に関わる保守点検、整備または交換などの各種作業は、必ず電気の供給を完全に遮断してから行ってください。なお、この時下記の事項を守ってください。
  １．作業中、第三者が不用意に電源を入れないよう「作業中、電源投入禁止」などの表示を見やすい場所に掲げる。
  ２．複数の作業者が保守点検を行う場合は、電源の入り切り軸の移動は必ず声をかけて安全を確認して行う。

[廃棄]

- 製品は火中に投じないでください。製品が破裂したり、有毒ガスが発生する可能性があります。

⚠ 注　意

[設置]

- 直射日光（紫外線）のあたる場所、塵埃、塩分、鉄粉のある場所、多湿状態の場所、有機溶剤、リン酸エステル系作動油、亜硫酸ガス、塩素ガス、酸類等が含まれている雰囲気中で、使用しないでください。
  短期間で機能が喪失したり、急激な性能低下もしくは寿命の低下を招きます。
- 腐食ガス（硫酸や塩酸など）、可燃ガス、引火性液等の雰囲気で使用しないでください。錆の発生による強度の劣化やモーターによる引火、爆発の危険性があります。
- 下記の場所で使用する際は、遮蔽対策を十分行ってください。措置しない場合は、誤作動を起こす可能性があります。
  １．大電流や高磁界が発生している場所
  ２．溶接作業などアーク放電の生じる場所
  ３．静電気などによるノイズが発生する場所
  ４．放射能に被爆する可能性がある場所
- ちり、ほこりの少ない場所に設置してください。ちり、ほこりの多い場所に設置した場合には、誤作動を起こす可能性があります。
- 大きな振動や衝撃が伝わる場所（4.9m／S^2以上）に設置しないでください。大きな振動や衝撃が伝わると誤作動を起こす可能性があります。
- 運転中になにか危険なことがあったとき直ぐ非情停止が掛けられる位置に非情停止装置を設けてください。ケガの原因になります。
- 製品の取り付けには、保守作業のスペース確保をお願いします。スペースが確保されないと日常点検や、メンテナンスなどができなくなり装置の停止や製品の破損につながります。
- 据付・調整等の作業を行う場合は、不意に電源などが入らぬよう「作業中、電源投入禁止」などの表示をしてください。

[運転]

- 電源を投入するときは上位の機器から順に投入してください。製品が急に起動し、ケガ、製品破損の原因になります。
- 製品の開口部に指や物を入れないでください。火災、感電、ケガの原因になります。
- 製品の１メートル以内にフロッピーデイスクおよび磁気媒体等を近づけないでください。マグネットの磁気によりフロッピーデイスク内のデータが破壊される可能性があります。

[保守、点検、修理]

- 絶縁抵抗試験を行うときは端子に触れないでください。感電の原因になります。（ＤＣ電源のため絶縁耐圧試験は行わないでください）

お願い

[全般]

- 「カタログ」、「取扱説明書」等に記載のない条件や環境での使用、および航空施設、燃焼装置、娯楽機械、安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途への使用をご検討の場合は、定格、性能に対し余裕を持った使い方やフェ―ルセーフ等の安全対策に十分な配慮をしてください。尚、必ず弊社営業担当までご相談ください。

[設置]

- 本電源の周辺には通風を妨げる障害物を置かないでください。破損の原因になります。

[設置・運転・保守]

- 製品を扱う場合は、必要に応じて保護手袋、保護メガネ、安全靴等を着用して安全を確保してください。

[廃棄]

- 製品が使用不能、または不要になった場合は、産業廃棄物として適切な廃棄処置を行ってください。

その他

■「安全上のご注意」全般についてお守りいただけない場合は、弊社は一切の責任を負えません。

■ 製品に関しての、お問い合わせは、最寄の弊社営業所にお願いいたします。住所と電話番号はカタログの巻末に表示してあります。

目　次

1. 注意 ……1
1-1．はじめに ……1
1-2．保証期間と保証範囲 ……2
2. 仕様規格 ……3
3. 外観図 ……4
4. 取り付け方法 ……5
4-1．放熱 ……5
4-2．出力ディレーティング ……6
5. 端子説明 ……7
6. 機能説明 ……8
6-1．RDY表示（RDY）・RDY出力信号（RDYOUT） ……8
6-2．出力電圧 ……9
6-3．保護機能 ……10
6-4．並列運転 ……11
6-5．配線方法 ……12
7. 故障と思われる前に ……13
付録１ ……14
付録２ ……15

1．注意

1-1　はじめに

　この度は、PS241／PS242　24V電源をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。これから、本機の特長や使い方について説明してまいります。

　どのような製品でも、ご使用方法やお取り扱い方法が適切でなければ、その機能が十全に発揮できないばかりでなく、思わぬ故障を生じたり、製品寿命を縮めることにもなりかねません。本書を精読していただき、お取り扱いに充分ご注意いただくとともに正しい操作をしていただきますよう、お願い申し上げます。尚、本書は大切に保管し、必要に応じて適当な項目をご再読願います。

・PS241／PS242は、DC24Vを駆動源とするIAI製コントローラ（DS/RCP/RCS）の専用電源です。

・入力電力は、100VAC仕様と200VAC仕様の2種類が存在します。

・本電源は電源容量が不足した場合でも、容量の大きな電源に置きかえる必要はありません。本電源を追加接続することにより、並列運転が可能です。最大5台まで、接続可能です。

・本電源は、並列運転を可能とする為に、あえて電圧変動を持っています。（24V±10%）

・IAI製以外の電源とは、接続できません。

・入出力端子への結線が、本取扱説明書に示されているように、正しく行われていることをお確かめ下さい。

・前面パネルのダイヤル（LF DET）は、特に必要時以外は回さないで下さい。あらかじめ規定値に設定してあります。

筐体表面は高温になります。やけどには充分ご注意ください。

・製品のよごれをとる場合は、中性洗剤を使用して下さい。アルコール等を使用しますと、塗装・シルクが剥がれる恐れがあります。

1-2　保証期間と保証範囲

お買い上げいただいたPS241／PS242　24V電源は、弊社の厳正な出荷試験を経てお届けしております。

本機は、次の通り保証致します。

１．保証期間

保証期間は以下のいずれか先に達した期間と致します。

・弊社出荷後18ヵ月。
・ご指定場所に納入後12ヵ月。

２．保証範囲

上記期間中に、適正な使用状態のもとに発生した故障で、かつ明らかに製造者側の責任により故障を生じた場合は、無償で修理を行ないます。但し、次に該当する事項に関しては、保証範囲から除外されます。

・塗装の自然退色等、経時変化による場合。
・消耗部品の使用損耗による場合。
・機械上、影響のない発生音等、感覚的現象の場合。
・使用者側の不適当な取扱い、並びに不適正な使用による場合。
・保守点検上の不備、または誤りによる場合。
・弊社純正部品以外の使用による場合。
・弊社または弊社代理店によって認められていない改造等を行った場合。
・天災、事故、火災等による場合。

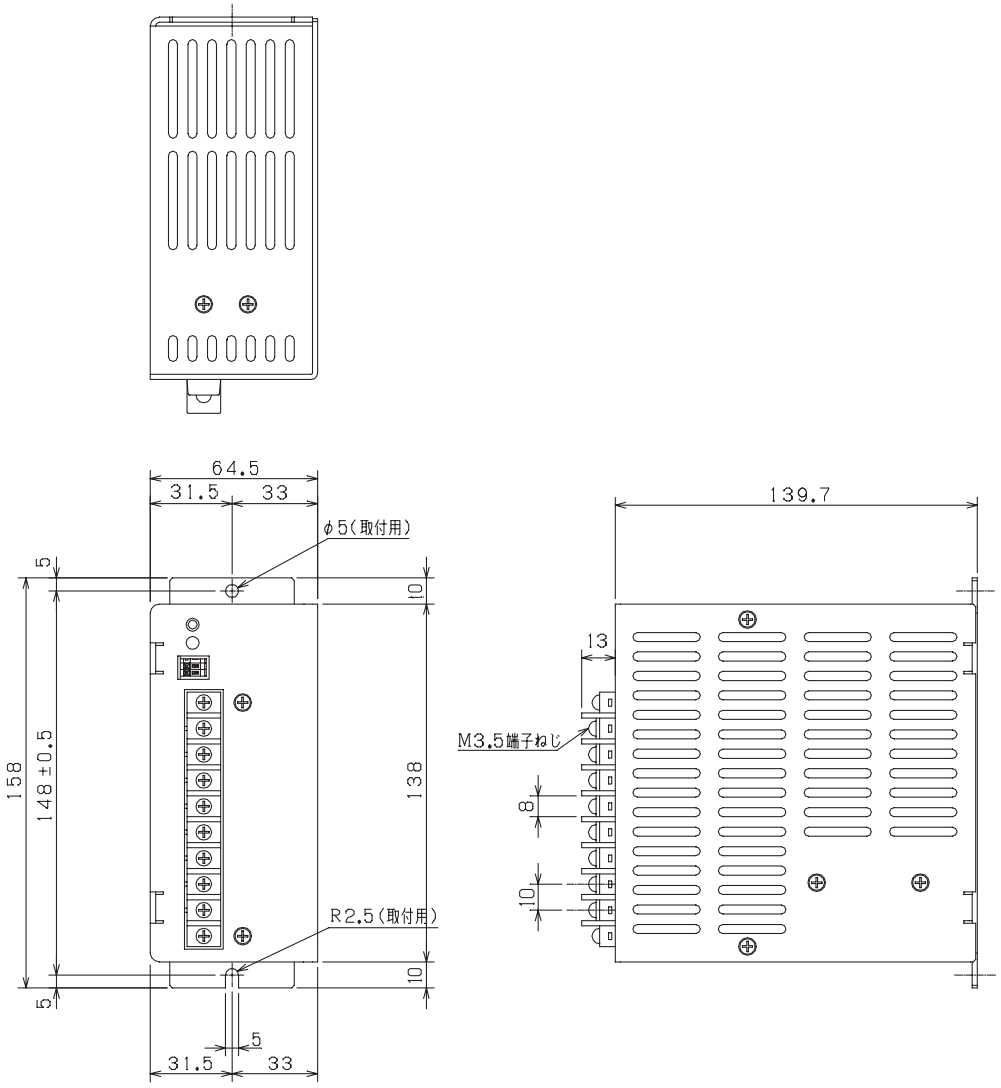
尚、保証は納入品単体の保証とし、納入品の故障により誘発される損害はご容赦願います。また修理は工場持ち込みによるものと致します。

保証に関する内容は以上の通りです。

2．仕様規格

項目	入力電源 仕様項目	AC100V仕様 PS241	AC200V仕様 PS242
1	定格直流出力電圧	24V±10%（負荷により変動）	
2	定格直流出力電流	8.5A	
3	瞬時最大直流出力電流	17A	
4	定格出力電力	204W	
5	効率	80%	80%
6	定格入力電圧 （周波数）	AC100～115V （50/60Hz）	AC200～230V （50/60Hz）
7	入力電圧範囲	AC85～125V	AC170～250V
8	入力電流	3.5A （100VAC全負荷時）	1.8A （200VAC全負荷時）
9	出力保持時間	20［msec］（周囲温度25℃,定格入出力条件下にて）	
10	保護回路	過電流保護、過電圧保護、過熱保護、過負荷保護	
11	並列運転	可能	
12	動作周囲温度	0～50℃（ディレーティングあり）	
13	動作周囲湿度	30～85%RH（結露なきこと）	
14	冷却方法	自然空冷	
15	耐電圧	入力-出力間･･･2.0kVAC 1分間 入力-筐体間･･･2.0kVAC 1分間	
16	絶縁抵抗	出力-筐体間 500VDCにて100MΩ以上	
17	回路方式	他励型フライバックコンバータ	
18	質量	約0.9kg	

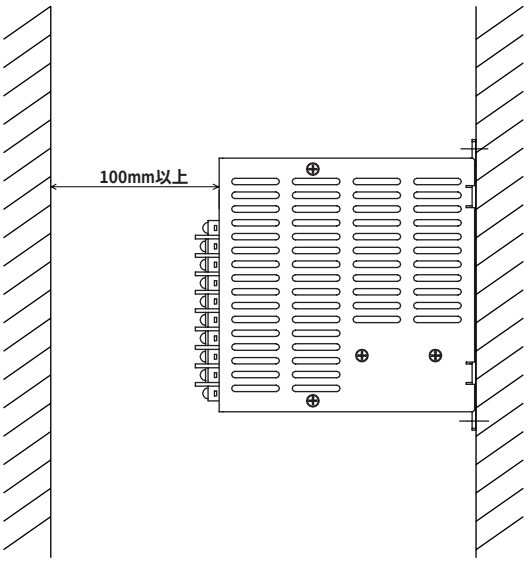
3．外観図

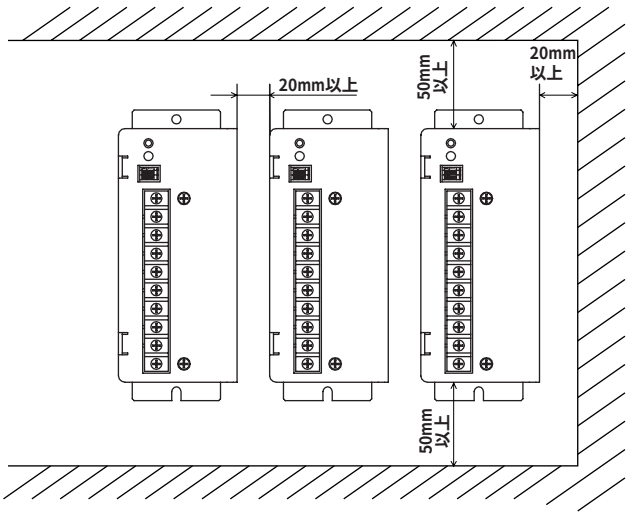

64.5
31.5
33
φ5(取付用)
5
10
158
148±0.5
138
R2.5(取付用)
10
5
5
31.5
33
139.7
13
M3.5端子ねじ
8
10

4．取り付け方法

4-1　　放熱

- 自然空冷タイプの電源です。下図の様に垂直に壁掛けとなる方向に取付けて下さい。
  自然対流が十分得られるように上下方向に50mm以上ずつ隙間を設けて下さい。
- 複数台並べて使用する場合には、各電源の間隔を20mm以上あけて下さい。
- 強制空冷をして頂ければ、より好条件となります。

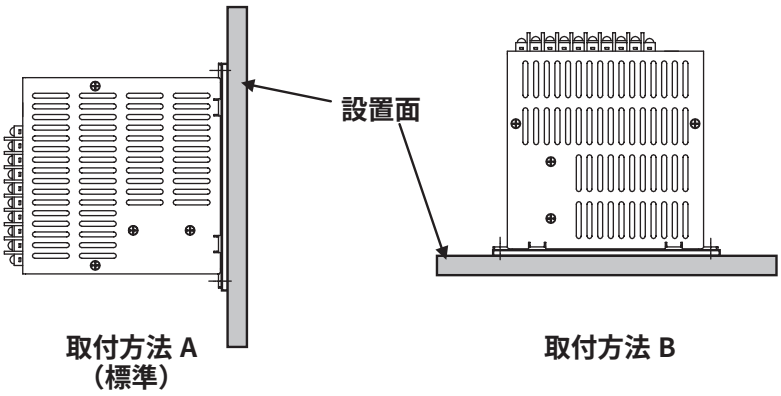


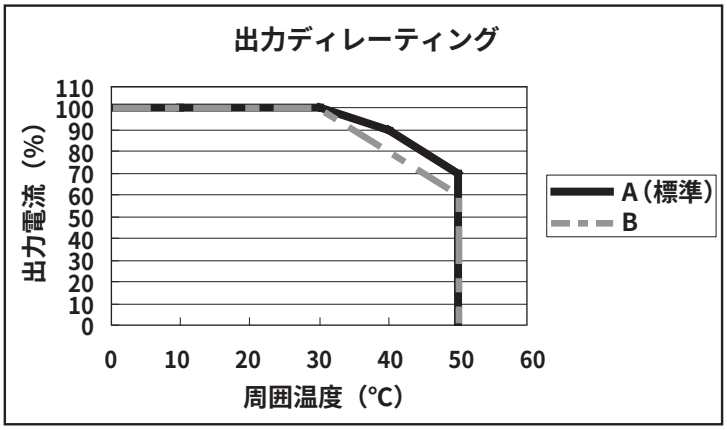


※　本製品の筐体は、放熱効果も兼ねています。大変熱くなり、やけどをする場合もあります。
　　通電中および通電後、温度が下がるまで筐体に触らないで下さい。

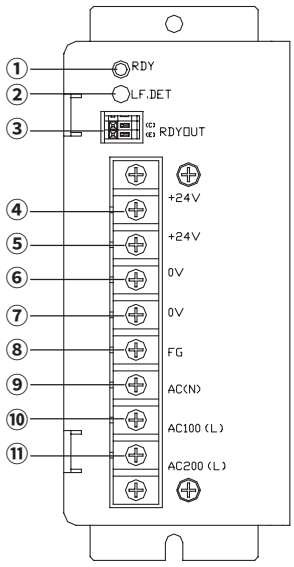
4-2　出力ディレーティング

取付け方法は、A（標準）の他、Bの方法も可能ですが、出力ディレーティングは異なります。いずれも下表のディレーティング内でご使用下さい。





5．端子説明



①RDY表示（RDY）

正常時点灯します。詳細は「6-1 RDY表示（RDY）・RDY出力信号（RDYOUT）」を参照して下さい。

②過負荷検出レベル設定用可変ダイヤル（LF.DET）

メーカー調整用です。

基本的にはお客様での操作は必要ありません。

③RDY出力信号（RDYOUT）

正常時ON（導通）します。詳細は「6-1 RDY表示（RDY）・RDY出力信号（RDYOUT）」を参照して下さい。

④⑤＋24V出力端子（＋24V）　※④⑤は内部で接続されています

⑥⑦0V出力端子（0V）　※⑥⑦は内部で接続されています

⑧フレームグランド端子（FG）

電源の筐体に接続されている接地用の端子です。

⑨交流入力端子（AC（N））

⑩交流（AC100V）入力端子（AC100（L））

AC100V仕様時のL側入力端子です。

⑪交流（AC200V）入力端子（AC200（L））

AC200V仕様時のL側入力端子です。

※ ⑩⑪は入力電源仕様により、どちらかを使用します。

AC100V入力仕様の場合は⑨⑩間へ

AC200V入力仕様の場合は⑨⑪間へ

電源を接続します。

兼用ではありません。

6．機能説明

6-1　RDY表示（RDY）・RDY出力信号（RDYOUT）

正常時、RDY表示は点灯・RDY出力信号はON（導通）となっています。本RDY表示が消灯及びRDY出力信号がOFFとなった場合、負荷の低減、または電源の付け足しをして下さい。

RDY表示が消灯、RDY出力信号がOFFとなる要因として以下の場合も考えられますのでご注意下さい。

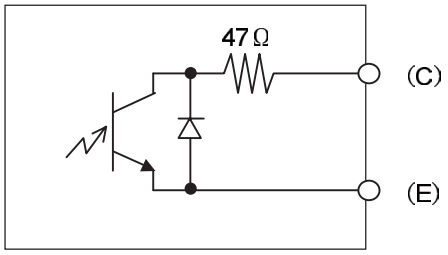
- 過熱保護回路・過電圧保護回路等が働き、出力が停止した時
- 入力電源が入っていない時、及び低い場合

また、過電流保護が働いた場合は、正常に機能しません。

なお、RDY表示とRDY出力信号は連動しています。

電源の状態	RDY出力信号	RDY表示
・正常時	ON	点灯
・負荷率が設定値を超過した場合 ・出力停止時 ・電源未入力時又は低い場合 （・過電流検出回路動作時）	OFF	消灯

RDY出力信号は、フォトカプラで絶縁されており、オープンコレクタ方式で以下の仕様となります。



VceMAX＝30V
IcMAX＝20mA
　残留電圧：約1.6V（Ic＝20mA時）

注）本端子を直列に接続する場合は、残留電圧を考慮して下さい。

6-2　出力電圧

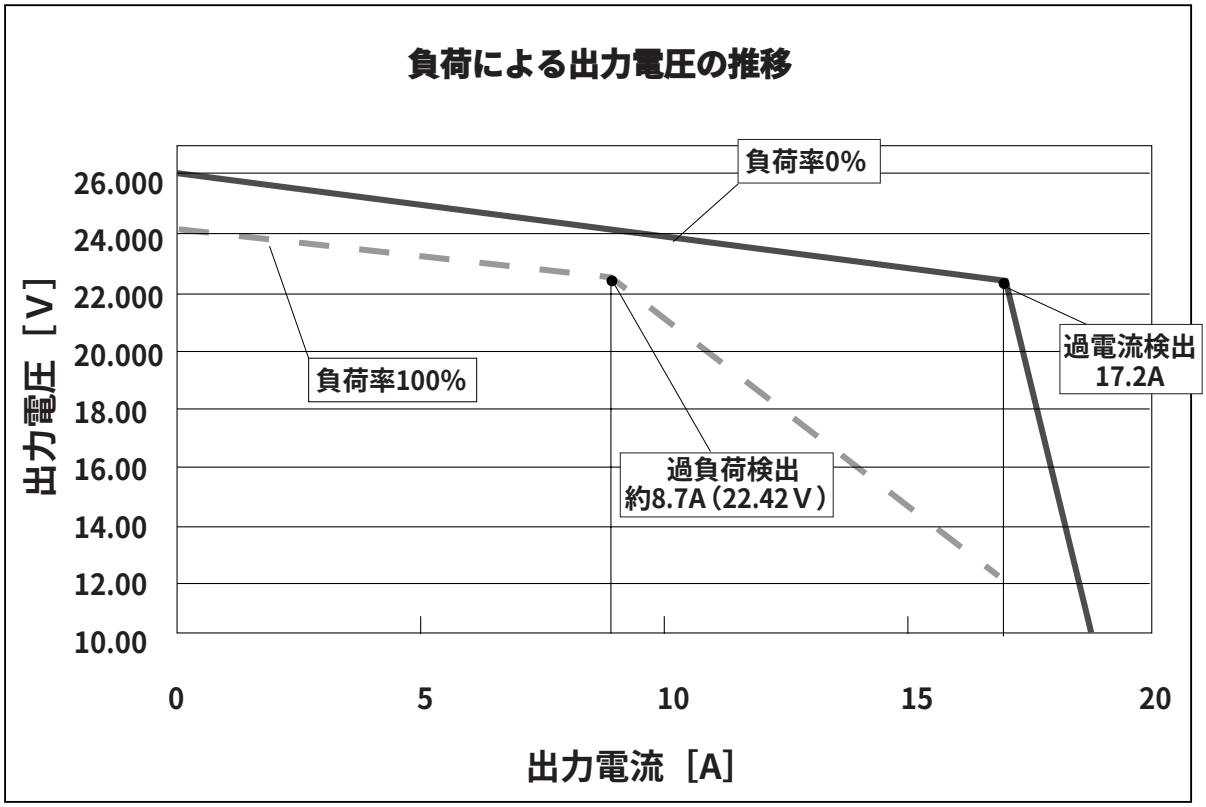
本電源の出力電圧は、正常動作時であっても、負荷により24V±10%内で変動します。並列運転を可能とする為に、電圧変動を大きくしています。

無負荷時は、25.8V前後の電圧値に設定してあります。

この変動は、IAI製24Vコントローラの動作には全く問題ありませんので安心してご使用下さい。

本電源の電圧変動は下表の通りです。

負荷率が0%の時は、実線の電圧変動をします。また、負荷率が100%の時は、破線の電圧変動をします。従って、電源使用時は、この2本のグラフの間で変動していることになります。



6-3　保護機能

保護機能として、以下4種類の回路を用意しています。

A）過電流保護回路

検出値以上の電流が出力された場合（短絡状態も含む）に、出力は急激に低下します。過電流状態を解除すれば自動的に電源出力は復帰します。

同時に多くのコントローラの電源を投入した場合、突入電流により、過電流保護回路が働く場合があります。

各アクチュエータ用コントローラの電源投入時や、非常停止解除の際、異常に電圧が低下する現象が発生した場合には、この原因が考えられます。

（実際の現象としては、電源の立ち上がりや、非常停止解除に異常な時間を要します。）

このような場合には、順次起動を行うか、電源の増設が必要です。

付－１に本電源ユニットとコントローラの接続台数の考え方を示します。

B）過電圧保護回路

出力電圧が異常に上昇した場合には過電圧保護回路が働きます。その時の動作は、以下、二段階の保護方式となります。

＜STEP1＞

出力を定電圧化（約40～50V）するよう一次側で制御します。

＜STEP2＞

さらに電圧上昇を続けた場合、出力を遮断します。復帰方法は、入力電源を一旦遮断し、約2分間以上間隔をおいてから、入力電源を投入します。

なお、過電圧保護回路が働いた場合は、内部素子の故障等の可能性があります。数回電源を再投入しても、正常に出力されない場合は修理が必要になります。

C）過熱保護回路

過熱保護機能回路は、周囲温度又は内部温度の異常上昇（約80℃）を検出し、出力を遮断します。復帰方法は、入力電源を一旦遮断し、十分冷却してから、入力電源を投入します。過熱保護機能が頻繁に働く場合は、周囲温度及び負荷率を下げる工夫をして下さい。

D）過負荷検出機能

過負荷検出回路が働くと、負荷に応じて出力は低下します。負荷率を軽減することにより、出力は復帰します。約8.7A以上の負荷で一定時間以上を出力していた場合に検出します。

6-4　並列運転

並列運転は可能です。但し、下記条件を守って下さい。

- 並列運転は、5台までとして下さい。また、IAI製24V電源以外の電源を並列運転用として、使用しないで下さい。

- 出力端子はプラス側、マイナス側とも2端子づつを用意しています。そのうち1端子づつを渡しケーブル用、残り1端子づつを負荷ケーブル用として接続して下さい。

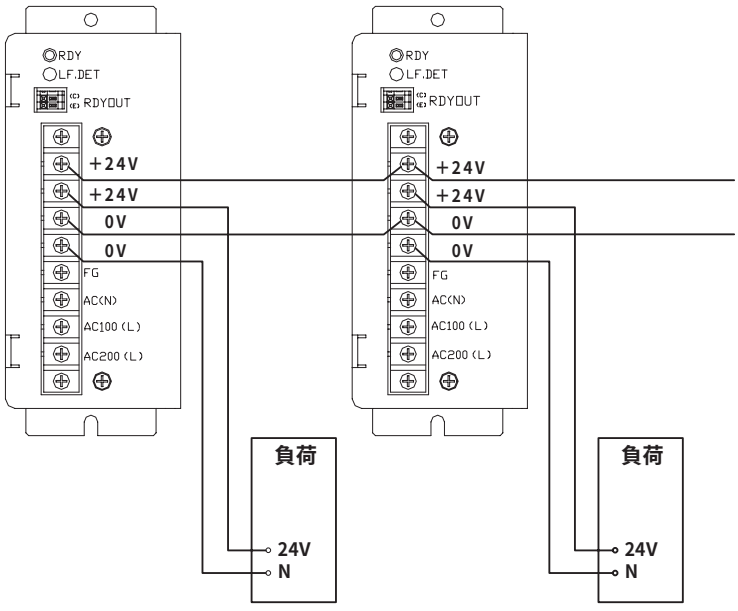
- 並列運転をする場合は、接続されている電源の入力を全台数とも同時に投入して下さい。負荷が多い場合、過電流検出回路が働き、正常に起動できない場合があります。

- 負荷はひとつの電源に偏ることがないよう、それぞれの電源にバランス良く配線して下さい。

例）10台のコントローラを3台の電源に接続する時

×悪い例	○良い例
1台目…コントローラ10台接続 2台目…コントローラ未接続 3台目…コントローラ未接続	1台目…コントローラ4台接続 2台目…コントローラ3台接続 3台目…コントローラ3台接続

- 負荷ケーブル、渡しケーブルは電流を考慮しAWG18以上の同一のものを使用して下さい。またできるだけ短く配線して下さい。



並列接続

- 複数台電源を並列に接続した場合は、出力電流は約90%のディレーティングとなります。電流容量を確認の上、並列接続を行って下さい。

  1台・・・定格8.5A
  2台・・・定格15.3A（8.5A×2×0.9）
  3台・・・定格22.95A（8.5A×3×0.9）

※ 無負荷状態で、電源を投入した場合、RDY表示・RDY出力信号がONしない電源がでてくる可能性があります。負荷を接続すれば、正常に動作します。

※ 直列運転はできません。

6-5．配線方法

- 入力ラインと出力負荷ラインは必ず、分離して下さい。又、各々をツイストすることによって耐ノイズ性がより一層向上します。
- 線材は太く、短く、インピーダンスを低くするようにして下さい。
- FG端子は、安全及び雑音端子上、実装セットの接地端子に確実に接続して下さい。

7．故障と思われる前に

内容	対策
出力電圧がでない	●規定の入力電圧が接続されていますか？ ●出力端子が短絡していませんか？ ●過電圧回路・過熱保護回路が動作した直後に電源を再投入していませんか？ ●並列運転時に、同時に電源を投入していますか？ ●周囲温度が高くありませんか？ ●負荷が大きすぎませんか？
出力電圧が低い	●負荷が大きすぎませんか？
RDY表示が点灯しない	●負荷が大きすぎませんか？

付録１

電源ユニットPS241/PS242とコントローラの接続台数

表1. アクチュエータと電源電流の関係

コントローラ タイプ	アクチュエータ タイプ	電源電流［A］		電源１台当たりの 接続台数（参考）※1
RCS	SA4,SA5（20W）	定格	1.2	7
		最大	3.66	
	SA6（30W）	定格	1.38	6
		最大	3.87	
	RB75（30W）	定格	2.28	3
		最大	4.64	
	RB75（60W）	定格	3.92	2
		最大	7.53	
	RA35（20W）	定格	1.75	4
		最大	4.29	
	RA45（30W）	定格	2.41	3
		最大	5.99	
DS	SA4,A4/SA5, A5（20W）	定格	1	8
		最大	2	
	SA6/A6（30W）	定格	1.5	5
		最大	3	
RCP	軸に関わらず	定格（＝最大）	2.5	6

※１“電源１台当たりの接続台数（参考）”に関しては、軸の定格電流 × 台数 ＜ 電源の定格電流（8.5A）
（RCPは、軸の定格電流 × 台数 ＜ 電源の瞬時最大電流（17A））として、計算しています。

電源ユニットの台数

表2. 電源の定格電流と許容瞬時最大電流

接続台数	定格電流［A］	瞬時最大電流［A］
1台	8.5	17
2台	15.3	30.6
3台	22.95	45.9
4台	30.6	61.2
5台	38.25	76.5

※2 台目以降は１０%の安全率（損失）を考慮します。

付録２

接続台数の決定方法

表１および、２を参考にし、負荷の定格電流が電源の定格電流値内におさまるように台数を決定して下さい。

ただし、**負荷条件が厳しい場合**は、負荷の定格電流・最大電流の値が、電源の定格電流・瞬時最大電流値を超えないように台数を決定して下さい。

負荷条件が厳しい場合とは、以下のような場合です。

・負荷が大きい（アクチュエータの定格可搬質量に近いワーク重量）
・加減速設定が高い
・速度が早い
・数軸の同時運転
・RB75の使用（設計上、最大電流が流れる時間が長い）等

必要な電源容量は、電源に接続される負荷の内容と運転条件によって、大きく異なります。負荷の定格電流と最大電流が、電源の定格電流・瞬時最大電流値を超えないように選定して頂ければ容量不足になることはありません。しかし、コストを考えれば実際の負荷条件で選定して頂くことが最も良い方法です。

電源には、負荷率検出のためのＲＤＹ表示があります。また並列接続による増設が可能ですので、実際に運転を行って

・RDY表示が消灯する
・過電流回路が働いてしまう

等の現象が起きた場合に、電源の並列台数の追加を行うようにすれば最適な選定を行うことができます。

【計算による選定例】

電源を7台接続した場合

＜定格電流＞

1.2A × 7台 = 8.4A　＜　8.5A（1台）

＜瞬時最大電流＞

3.66 × 7台 = 25.62A　＞　17A（1台）

＜　30.6A（2台）

①瞬時最大電流を考慮した場合

定格電流は8.5A以内となりますが、瞬時最大電流は17Aを超えてしまうため、1台では容量不足となります。**→２台の並列接続が必要です。**

②運転条件に合わせた場合

上記計算による瞬時最大電流は、最大負荷にて最大加速を全軸同時に行った場合の最大値です。このような条件下での使用は一般的には考えにくく、軽負荷、低加速、全軸同時に加速をしない等の使用条件であれば、1台の電源容量で足りることになります。**→１台の接続で動作可能**

IAI
Quality and Innovation

株式会社アイエイアイ

本社・工場	〒424-0102	静岡県静岡市清水広瀬645-1	TEL 0543-64-5105(代) FAX 0543-64-5182
東京営業所	〒113-0034	東京都文京区湯島1-3-4 KTお茶の水聖橋ビル2F	TEL 03-5803-7803(代) FAX 03-5802-8151
大阪営業所	〒532-0011	大阪市淀川区西中島7-7-2 新大阪ビル西館2F	TEL 06-6886-0301(代) FAX 06-6886-0311
名古屋営業所	〒460-0026	名古屋市中区伊勢山2-5-10 服部ビル5F	TEL 052-323-8777(代) FAX 052-323-8904
仙台営業所	〒980-0802	宮城県仙台市青葉区二日町14-15 アミ・グランデ二日町4F	TEL 022-723-2031(代) FAX 022-723-2032
新潟営業所	〒940-0082	新潟県長岡市千歳3-5-17 センザイビル2F	TEL 0258-31-8320(代) FAX 0258-31-8321
宇都宮営業所	〒321-0953	栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16 ルーセントビル3F A	TEL 028-614-3651(代) FAX 028-614-3653
熊谷営業所	〒360-0044	埼玉県熊谷市弥生町1-15-1 クレストフクダビル2F	TEL 048-528-0270(代) FAX 048-528-0271
厚木営業所	〒243-0014	神奈川県厚木市旭町1-10-6 シャンロック石井ビル6F	TEL 046-226-7131(代) FAX 046-226-7133
長野営業所	〒390-0877	長野県松本市沢村2-15-23 ラルカ沢村ビル2F	TEL 0263-37-5160(代) FAX 0263-37-5161
静岡営業所	〒424-0102	静岡県静岡市清水広瀬645-1	TEL 0543-64-5105(代) FAX 0543-64-5182
豊田営業所	〒446-0054	愛知県安城市二本木町切替7-2 錦見ビル6F	TEL 0566-71-1888(代) FAX 0566-71-1877
金沢営業所	〒920-0024	石川県金沢市西念3-1-32 西清ビルA棟2F	TEL 076-234-3116(代) FAX 076-234-3107
京都営業所	〒612-8401	京都市伏見区深草下川原町22-11 市川ビル3F	TEL 075-646-0757(代) FAX 075-646-0758
岡山営業所	〒700-0945	岡山県岡山市新保1105-1	TEL 086-801-3544(代) FAX 086-225-7781
広島営業所	〒730-0802	広島市中区本川町2-1-9 日宝本川町ビル5F	TEL 082-532-1750(代) FAX 082-532-1751
松山営業所	〒790-0905	愛媛県松山市樽味4-9-22 フォーレスト21 1F	TEL 089-986-8562(代) FAX 089-986-8563
福岡営業所	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-18-1タマホーム(株)本社ビル2F	TEL 092-415-4466(代) FAX 092-415-4467

ホームページアドレス http://www.iai-robot.co.jp

IAI America, Inc.
Head Office 2690W 237th Street Torrance. CA90505
TEL (310) 891-6015 FAX (310) 891-0815
Chicago Office 1261 Hamilton Parkway Itasca, IL 60143
TEL (630) 467-9900 FAX (630) 467-9912

IAI Industrieroboter GmbH
Ober der Röth 4, D-65824 Schwalbach am Taunus, Germany
TEL 06196-88950 FAX 06196-889524

製品改良のため、記載内容の一部を予告なく変更することがあります。
Copyright © 2003. Jun. IAI Corporation. All rights reserved.